

コオイムシは、どうやって背中に卵をのせるの

メスがオスの背中に卵を産みつける

みずくさがたくさん生えた池や、流れのゆるやかな小川で、5～6月ごろ、背中に卵をびっしりつけた、カメムシのような形の、水生こん虫を見かけることがあります。これが、コオイムシのオスです。おしりに呼吸管があり、これを水面につき出して空気を吸い、腹の表面に空気をためて、水中にもぐります。

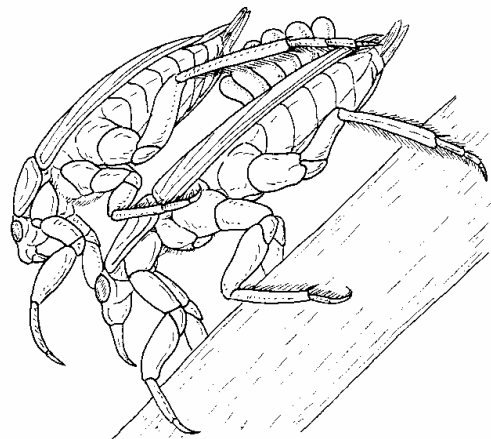
コオイムシのメスは、5月ごろ、水中でオスの背中に50～100個もの卵を、かためて産みつけます。卵を背負ったオスは、卵がかえる1か月後ぐらいまで、卵を守ってくらしします。水が暖かい浅い所で卵を温めたり、ときどき水草につかまって、背中の卵を水からつき出し、卵が空気中の酸素を呼吸できるようにしてやったりして、世話をします。

モノアラガイも食べるコオイムシ

1か月ぐらいすると、背中の卵が次々と割れ、コオイムシの幼虫が生まれてきます。幼虫は、水中の小さい動物を食べ、4回だっ皮をして、およそ1か月後に、成虫になります。

成虫のコオイムシは、曲がった前足で、オタマジャクシや小さな貝のモノアラガイ、小魚、ほかの水生こん虫などをとらえ、消化液でとかした体液を吸っています。

(監修・中山 周平)



水中でオスの背中に卵を産むコオイムシのメス

